

愛知県新ブランド米「愛ひとつぶ」について

～デビュー2年目の2021年産「愛ひとつぶ」の販売状況と今後の展望～

東野 敦（農業水産局農政部園芸農産課）

【令和4年3月22日掲載】

【要約】

デビュー2年目となる2021年産「愛ひとつぶ」の販売は、知事による販売開始宣言を皮切りに県内量販店において開始され、好評のうちに2022年3月末をもって320精米トンの販売が終了予定である。今後も、「愛ひとつぶ」のブランド化のため、生産面積の拡大と品質の安定化によって生産体制を強化するとともに、県内での販売に向けたメディアやイベントを活用したPR活動に取り組む

1 はじめに

愛知県では、JAあいち経済連を始めとする農業団体や生産者と連携して、2017年に本県が開発した水稻品種の「なつきらり」を「愛ひとつぶ」の名称でブランド化を進めている。ここでは、「愛ひとつぶ」の特徴やデビュー2年目となる2021年産「愛ひとつぶ」の販売について紹介する。

2 「愛ひとつぶ」とは

登録生産者によって限定栽培された「なつきらり」のうち、厳しい品質基準を満たしたお米が「愛ひとつぶ」となる。「愛ひとつぶ」は上品な甘みともっちりとした食感が特長である。

また、「なつきらり」は、近年の夏の高温により、米粒が白く濁るという品質の低下が深刻化する中で、県農業総合試験場が、猛暑の年でも、品質が良く、おいしいお米として開発した。

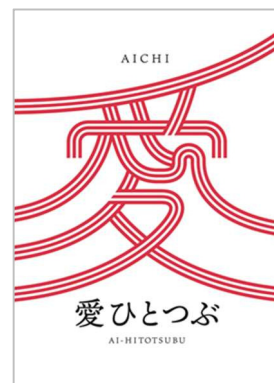


図1 愛ひとつぶのロゴマーク

3 登録生産者とは

水稻の経営面積が原則10ha以上であること、専用肥料を使用すること、生産技術の向上を目的とした地域協議会への参加を主な生産者登録要件としている。

なお、2021年産については、県内の14JA管内で79名の生産者が約120haで「愛ひとつぶ」の生産に取り組んだ。

4 厳しい品質基準とは

農産物検査の等級が1等（最高格付け）であること、玄米のタンパク質の含有量が6.4%以下（水分14.5%換算）であることとしており、他県産ブランド米に匹敵する厳しい品質基準を設けている。なお、品質基準の達成状況等については表1のとおりである。

表1 「なつきらり」の生産状況

年度	2017	2018	2019	2020	2021
作付面積 (ha)	5	6	9	50	120
生産量 (t)	23	28	41	226	550
うち品質基準達成 (t)				171	432
品質基準達成率 (%)				75.9	78.7
生産者数	14	16	28	55	79
取組 J A 数	7	7	11	13	14

5 2021年産「愛ひとつぶ」の販売について

2021年産の「愛ひとつぶ」が県内量販店において、販売開始されるのに先立ち、知事が「愛ひとつぶ」を製造する精米工場で販売開始宣言をした（写真1）。その様子は、テレビ局4社・業界紙を含む新聞2社に取り上げられた。

また、「愛ひとつぶ」の認知度向上のため、知事が期間限定でテレビCMに出演した。

2021年産「愛ひとつぶ」の販売は、メディアを通じたPRや、店頭での大量陳列などの販促手法をとった。消費者からは、「テレビや新聞で見て気になっていた」、「味が良く、何回も買っている」など支持を得て、好評のうちに2022年3月末をもって320精米トンの販売が終了予定である。



写真1 知事による販売開始宣言

5 2022年度以降の取組

2022年度は、生産者約100名が「愛ひとつぶ」の生産に取り組み、生産規模は約220haとなる見込みである。今後も、「愛ひとつぶ」のブランド化のため、生産面積の拡大と品質の安定化によって生産体制を強化するとともに、県内での販売に向けたメディアやイベントを活用したPR活動に取り組む。